

研究雑話 (54)

人間発達の物質的基礎 (十八) … コトバと叙述 (三三三)、対話の韻律 (拍節二音のリズム)

藤井力夫

前回は、/ココ・パパ/、/チョウ・ダイ/リ

ン・ゴ/など二語文への移行をめぐる、「等時性拍音形式」という考え方をお話ししました。これは、/ココ/、/チョウダイ/、/イヤ/といった意志をもった幼児にとつて好都合な形式です。振り子運動に乗って見たこと、感じたことを話すればよいのです。二歳から三歳にかけてどんどんお話しできるゆえんです。今回は、三歳児がどのように話しているか、三歳三カ月の子ども(Aちゃん・男)を例にその実際を分析してみました。

先日、お家に伺い、お父さんと一緒に絵本でお話しているところを録音しました。目から脳に入り疑問に思ったり、気づいた事柄をことばでやりとり、整理している姿を見事に再現してくれます。対話的な大人の支えがあつてのことですが、対話に共通の振り子運動が介在しているように思われます。往拍、復拍それぞれに二音の構成で、「拍節二音のリズム」と名付けました。

図は、マイクロフォン(単一方向)からの音声波形と基本周波数の成分(スペクトル包絡、五デシベル以下削除)。取り込みは二千分の一秒で、六四ポイントごとと高速フェリー変換。音の高さを視尺できるようにハ長調のミ(一六五HZ)とラ(二二〇HZ)及びその倍音に実線。間に「拍節二音」のリズムを了解できるように〇〇・〇〇/の書式で発語を記し、周波数成分の包絡頂点を鉛

筆でなぞりました。参照下さい。

/ナン・デー/コド・モー/ウシ・ロー/イル・ノー/: Aちゃんは絵本のなかでお母さんの背中にだっこされている子どもを発見。大きめの子どもです。頭のなかで「赤ちゃんじゃないのに」と思ったのでしよう。それでこの質問となったわけです。/ナン・デー/で低から高へと立ち上がっています。これはフレーズとしての開始を意味。そして/コド・モー/と復拍で下がり、中断。再び、/ウシ・ロー/と低から高へと立ち上がり、/イル・ノー/と下がつて行きます。一つの文ですが、四拍節ごとで区切り、二つの立ち上がりを作っています。二つに分けて表現。聞き手がいるから続くのです。拍節二音を基本とした四拍節ごとの「対話的韻律」と言えるでしょう。

これに対し、お父さんは「おんぶ」と言い替え、「まだ歩けないから」と答えています。子どもは納得。/マ・ダ/アル・ケー/ナイ・ノー/と自ら反復しています。お父さんは「そう」と相づち。Aちゃんはさらに頭に浮かんだことを拍節リズムに乗せてお話しします。/ーコ・ドモ/ダ・ツコ/ダ・ツコ/ツテ・/イ・ツテ/ール・ネー/。

(北海道教育大学教授)

